

# 週刊ヤマケイ

2018/06/28



# 三宅修山岳写真塾卒業展

7月5日(木)～11日(水)東京・四ツ谷にて開催



雲の上の花園(写真＝齋藤健志)



荒ぶる峰(写真＝本間晶子)

私たちは、かつて山岳雑誌『岳人』の山岳写真コンテストに応募して研鑽を続けてきた山岳写真愛好家です。山岳写真界の次世代を担う人材を育てることを目的に、長年コンテストの選者を続けてこられた三宅修先生は、山岳写真コンテスト終了後、3年という年限を決め私塾を立ち上げ、私たちは引き続き研鑽を続けることにいたしました。

このほど、その3年の節目を過ぎたことから、塾生各人がそれぞれの心に在る「自分の山」を内面にまで踏み込んで制作した1人5～6点の組・連作作品を発表し、写真展を開催するものです。

(文＝松原貴代司)

\*\*\*

### 「三宅修山岳写真塾卒業展」

日時：7月5日(木)～11日(水)10:00～18:00(土日祝は11時から、最終日は15時まで)

入場無料

会場：ポर्टレートギャラリー

東京都新宿区四谷1-7-12 日本写真会館5F

特別出展：三宅修

出展者：梶野春信／輿水忠比古／小島台吉／齋藤健志／佐藤孝也／本間晶子／長谷川由美子／  
松原貴代司／緑埜公一／三間千恵／脇坂恭司

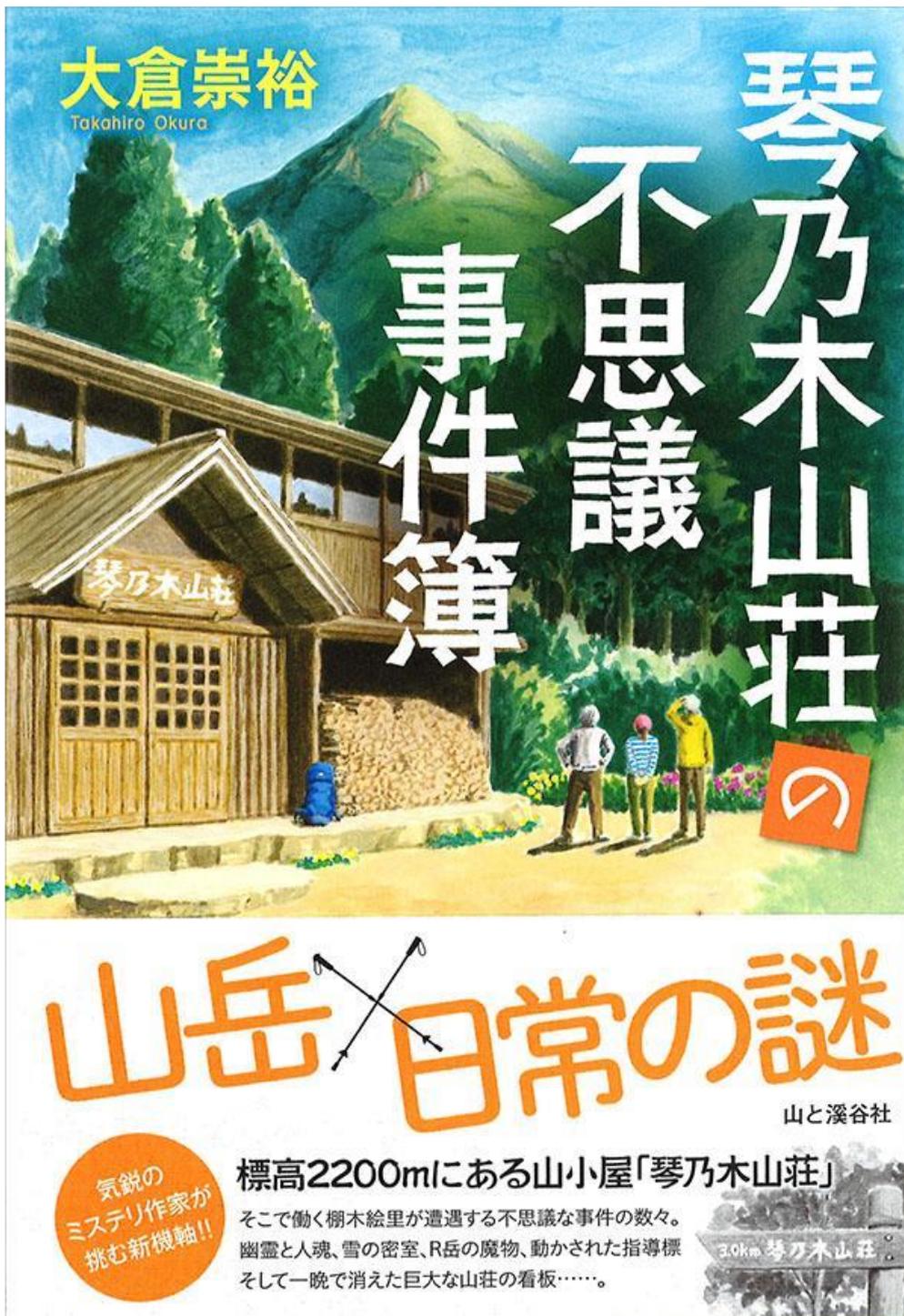
問い合わせ先：松原貴代司 090-4672-5748



# 『琴乃木山荘の不思議事件簿』

『山と溪谷』の好評連載ミステリがついに単行本化！

『琴乃木山荘の不思議事件簿』著者＝大倉崇裕／6月16日発売／1700円＋税／四六判／272ページ／ISBN＝978-4-635-17195-3



『山と溪谷』2017年4月号で連載が開始するやいなや、多くのファンから注目を集めた大倉崇裕さんのミステリがついに単行本になりました。

本作の舞台は架空の山小屋、標高 2200m にある「琴乃木山荘」。主人公の棚木絵里は、そこで働くアルバイトスタッフ。山小屋オーナーの琴乃木正美、年齢不詳のベテランアルバイト・石飛匠らと、山で起こる「不思議なできごと」の真相に挑む、というストーリーです。

第一話「彷徨う幽霊と消えた登山者」は、幽霊の謎。主人公といっしょに働く斉藤まゆみが、テント場の先で二晩連続して幽霊を見た。そしてなぜか同じ姿格好の人間が三日続けて、ふっと現われ、ふっと消えていくのです。

第二話「雪の密室と不思議な遭難者」は、密室の謎。雪が降る夜に、ロウソクと寝袋、携帯だけを所持した男が、山小屋の離れに倒れていた。離れは施錠されており、そして雪が降り積もる周辺に足跡はありませんでした。

第三話「駐車場の不思議とアリバイ証明」は物体移動の謎。山小屋の横に停めた動かないはずの車が動いた。一年前に発生した殺人事件との関連は……。

このほか 3 年連続で故意に動かされた指導標をめぐる「三つの指導標とプロポーズ」、7 年前に失踪した人間が琴乃木山荘で働いていた? 「石飛匠と七年前の失踪者」、山荘玄関から消えた看板が山頂で見つかる「竜頭岳と消えた看板」、そして単行本書き下ろしとなる「棚木絵里と琴乃木山荘」では暗号の謎が描かれています。

大倉崇裕さんといえば、ヤマケイ文庫『生還 山岳捜査官・釜谷亮二』などに代表されるシリアスな作品から、「警視庁いきもの係」シリーズのような軽妙洒脱なユーモア作品まで、さまざまなミステリを手がけることで知られています。

全 7 編を収録する本作でも、ハートウォーミングなストーリーあり、人の心の闇を描くサスペンスあり、と大倉さんの筆は縦横無尽にふるわれています。石飛匠が主人公に語る「琴乃木山荘にだって、光と陰がある」という言葉は、読後にあらためて読者の胸に染み渡り、そしてもう一度、最初から読み返したくなるはずです。

『琴乃木山荘の不思議事件簿』

<https://www.yamakei.co.jp/products/2818171950.html> (紙版)

<https://www.yamakei.co.jp/products/2818120814.html> (電子書籍版)

# 山形県・月山

梅雨の晴れ間の撮影登山



姥ヶ岳から月山へ続く稜線(右上が月山山頂)(写真=小瀬村 茂)



新緑と残雪のゼブラ模様がきれいな尾根(写真=小瀬村 茂)

## 6月22日、曇りのち晴れ

---

姥沢登山口からリフトを利用しないで登ろうと思いましたが、前日にリフト係の方から夏道は残雪で分断されているのでルート不明瞭と聞いていたので、やむなくリフト利用での登山となりました。リフト索道の草地には一面ニッコウキスゲが咲き、足元に花を眺めながらの空中散歩です。

リフトを降りると景色は一変して残雪豊富な雪渓が目の前に広がっていました。6月下旬というのにその雪の多さはさすが月山だなと感心しました。

この日は梅雨前線が南へ下がり朝から快晴になるはずでしたが、予報に反して山は厚い雲に覆われ、一面のガスです。写真撮影は無理かもしれないと思うとカメラの三脚が一層重たく感じます。視界がほとんどない中、月山への通過点である姥ヶ岳へは急な雪渓を誘導ロープたよりに行くことになるので、安全のためアイゼンを付けて登山開始です。

山頂に着くと雪はなく、チングルマがわずかに咲き残っていました。雪が解けた稜線上の登山道はどこも同じで、途中の金姥付近にもチングルマの大きな群落がありましたが花は終りでした。

姥ヶ岳から牛首を経て月山山頂へ。昼を過ぎ山頂を後に戻り始めても相変わらずガスの流れは続いていましたが、牛首付近に下降した頃からしだいに雲に切れ目が出始めてきました。日が差し始めると雲の影が山肌を流れ、雪渓を陰と陽に分けて予想外の撮影チャンスです。ガスで写真撮影はあきらめていたので、いそぎカメラをセットし光の移りを見極めながらシャッターをきりました。

登山終盤で思いがけなくフォトジェニックな残雪の山を撮ることができました。

(文＝小瀬村茂／山岳写真工房)

#### 参考書籍

アルペンガイド『東北の山』

<https://www.yamakei.co.jp/products/2811013630.html>